

オゾン層保護のこと、リサイクルのこと このまなざしも自販機は忘れていません

フロンから低GWP(温室効果)ガスへ 環境に配慮した冷媒へ

清涼飲料自販機の場合、冷媒に使われるフロンは、すでにオゾン層を破壊しないタイプに転換済。
さらに一歩すすめて、2005年からは、オゾン層だけでなく地球温暖化にも影響を及ぼさない低GWP冷媒(二酸化炭素や炭化水素など)も採用され始めています。



使用済み自販機の その後をご存じですか？

蛍光灯、フロンガスなどは
あらかじめ回収し、
環境省による事前選別ガイドラインに従って
適正に処理されます。



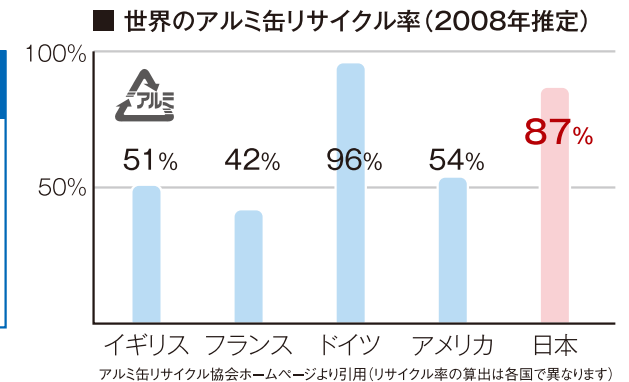
日本の容器リサイクル率 世界トップクラスです

飲み終えた容器は貴重な資源、もういちど活用できます。
スチール缶、アルミ缶のリサイクル率はともに88%超。
PETボトルについても85%に迫るなど、
いずれも世界最高レベルです。



	スチール缶	88.5%
	アルミ缶	93.4%
	ペットボトル	84.9%

※スチール缶は2008年、アルミ缶は2009年の確定数値
ペットボトルは2008年の推計



リサイクル促進のために 空容器回収BOXの設置を推進

清涼飲料自販機業界でも、リサイクルに積極的に取り組んできました。
とくに容器リサイクルの入り口となる「空容器回収ボックス」は、およそ86%^{*}の自販機に設置済。さらに回収促進をはかっています。^{*}東京・名古屋・大阪での調査データ

